

ベトナムの真の国際化とは？

—タクシー運転手とのやり取りから—

丸崎健仁

「タクシーに乗らないかい？
うちならよそのタクシーより安
いよ！」

ベトナム渡航初日。空港から
降り立ち、タクシーを拾おうと
空港内にある案内板に目をやっ
ていた最中、ふと声を掛けられた。

タクシー運転手らしい彼は「君の
行き先のホテルまで案内できる」
と片言の英語で言っていた。特に

当てもなかったため、「ホテルま
で四〇万ドンで」と値段交渉し、

その場で成立。彼の薦めるタクシーに乗ることにし、
彼の後に付いていった。ところが、間もなく別の若
い男に私を引き渡し、最初の男は消えて行った。

エスカレーターで二階に上がり、道路脇でタク
シーを待っていると、なんとそこに現れたのは、
タクシー会社のステッカーが一切ない黒塗りの普
通車。「あれ？」と思うのも束の間、荷物をトラ
ックに入れられ、私も後部座席に乗せられ、我々
の車はすぐさま発車した。

車内では、「お前は日本人か」「何歳だ」「ベトナ
ムは何回目だ」「俺もいつかは東京に行きたい」な
ど世間話をした。親しみの湧く笑顔で話し掛けら
れているうちに、緊張の糸もほどけていく。どうや
ら運転手も若い男も悪い人ではなさそうである。

唯一気になったのは、「君のドン（VND。ベトナ
ムの通貨）は使えないよ」というセリフ。この国の

通貨にドン以外はなく、し
かも先ほど空港で両替して
もらったばかりなのに……。

ホテルが前方に見える道
路に停車し、精算をしよう

としたとき、事態は急変した。まず、「六〇万ドン相
当の日本円をよこせ」と言われた。「使えないはずは
ない」と六〇万ドンを運転手に渡したものの、「これ
は使えない！」と怒り出し、私の財布から五〇〇〇
円札（二〇〇万ドン相当）を強引に抜き取ったのだ。

おまけに運転手はその六〇万ドンも返そうとしない。
このままでは埒が明かないと「ホテルのスタッ
フにお願いをして交渉後支払う。悪いが一緒に付
いてきてくれ」と運転手に打診。ものすごく嫌な

顔をされたが、こちらも引くわけにはいかず、
「Please come」を連呼。運転手に目配せされた若
い男が渋々と車を降り、一緒に来いという彼に、

私は荷物を運転手に預けたままホテルへ向かった。
だが、明らかに前方に見えるホテルへの道とは違
う路地に入る。「これはまずい。お金と荷物を盗む
気だ」と察した私は、全神経を彼に注いだ。しば

らくして彼の携帯電話が鳴り、ベトナム語で会話
している。「電話はすぐ済むから先に行っていてく
れ」という彼の言葉は無視し、電話が終わるのを
待つ。機嫌を損ねたのか段々と彼の口調も荒くな

る。さらに路地を進んでいくと、また電話が鳴り
立ち往生。一步も引かぬ私。睨む彼。さすがに頭
に来た私は、「ここはホテルまでの道ではないだ
ろ！ ちゃんと道案内してくれ。ホテルに電話を
かけてくれ」と彼の腕を掴んで先ほど自分で確認
したホテルまでの道に戻ろうと引つ張った。「手を

放せ」と何度も言う彼に「NO」の一言。握って
いる腕から彼の体が震えているのが伝わってきた。

ようやく元の道まで戻ったが、既にタクシーはな
い。ホテルにも連れて行く気のない彼に「運転手
の所まで連れて行け！」といつもにない強い口調で
迫る。五〇メートルほど歩いた路肩に車はあり、
中で相棒がイライラしながら待っていた。なんとか

五〇〇〇円を取り返したものの、「通行料の四〇万
ドンをよこせ」と言う運転手に、仕方なくぐいと
お金を押し付け、礼も言わずにその場を後にした。
結局一〇〇万ドン（五〇〇〇円相当）を支払ったこ
とになる（後に、空港から市内ホテルまでのタク
シーの正規料金は二五万ドン（通行料含む）と判
明した）。しばらくの間、私は恐怖というよりは自
分を受けた仕打ちに対する怒りで満ち満ちていた。

実際、私と同じような被害に遭う観光客は非常
に多い。更にこうした行為はタクシー運転手に限
らず、観光土産店の店員や路上販売員など市内の
至るところで横行している。ある時、お金を騙し
取る理由をベトナムの知人に尋ねたことがある。
すると彼は、「お金を儲けたいから。お金が何
より重要で、携帯やパソコンなど電子製品や家電
といった富の象徴が購入できるだけのお金がない
れば、自分に自信すら持てない」という。社会主
義国家に拝金主義が浸透していることを改めて実
感させられた、心寂しくなる回答であった。

それでもやはり、私はこの国に明るい未来を歩ん
でいってみたい。外国人観光客に対し公正な
サービスを提供し、訪れた人に親近感を抱いてもら
うような態度を改めることは、ベトナムが真に国際化
する上で大きな一歩となるだろう。同時に、私のよ
うに請求された金額を素直に渡すという、外国人観
光客の金銭感覚の甘さも改める必要があるだろう。

私はこの苦い経験から学び、三度目のベトナム
渡航の際には、毅然とした態度で現地人の法外な
金額請求を一蹴し、時には「ダックア（高い！）」「ボツ
ディー（負けてよ！）」攻勢で値切り交渉を試み、
ドンの消費を最低限に抑えることができるまでに
なった。それでも「まだ現地価格ではないわね」と
現地の友人に笑われた。何とも欲の深い国である。

まるさき けんじ

アジア経済研究所 国際交流・研修室 職員
2010年4月入構